

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E112N018		異文化理解と英語教育 (Comparative Culture)															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	3	教育学部 平成31年度以前入学生用			氏名 穴井 孝義 E-mail 内線											
授業の概要	本授業は3部から構成される。第1部では、ウォーミングアップ活動やペアによる英会話練習を展開して英語使用の雰囲気高めるとともに、実際に使える重要な英語表現や語句を学ぶ。第2部では、英語圏内・圏外の背景にある文化の多様性や異文化間コミュニケーションの実態の理解に努める。第3部では、実際の英語教育現場から出てきた英語や英語文化圏への様々な疑問に対し、その問題を解決すべく学習者の目線に立ち、彼らが納得できる説明を組み立てられるようになることを目指す。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1	重要な英語表現や語句を十分に習得して実際に使いこなすことができる。																
目標2	英語圏内・圏外の背景にある文化の多様性や異文化間コミュニケーションの実態を理解することができる。																
目標3	英語が使われている国や地域の歴史、社会、文化などについて基本的な背景を理解することができる。																
目標4	英文中に登場する未知語の意味を、その前後の文脈や語形からおおよその確に推測できるようになる。																
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1	授業のオリエンテーション+関係資料の配布																
2	Convenience Stores (中国と日本のコンビニの違い)																
3	Norimaki (韓国と日本の食事情)																
4	"Hai" (様々な中国語)																
5	Ramen (小麦と米の文化の分布)																
6	Flavors (香辛料を使ったアジアの食文化)																
7	Car Names (ネーミングの付け方)																
8	グループ発表(「英語なぜなぜ疑問」に対する回答)																
9	Fakes (「偽物」と「似た物」の違い)																
10	Valentine's Day or International Women's Day (「バレンタインデー」と「国際婦人デー」)																
11	It Doesn't Mean That. (コミュニケーションをとる際のルールの難しさ)																
12	The Draft (徴兵制)																
13	The University System (オーストラリアの大学制度)																
14	Job-hunting (日本とアメリカの就職活動の違い)																
15	グループ発表(「英語なぜなぜ疑問」に対する回答)																
ラック ニ ン ゲ	A:知識の定着・確認	* 英語学習者が英語や英語圏に抱く様々な疑問に対す納得のゆく説明を2回に分けてグループ発表形式で行ってもらうので、その準備を進めること(評価の対象)。 * 第1週のオリエンテーションの中で「英語なぜなぜ疑問リスト」を配					工 夫 そ の 他 の	グループで発表する内容と同一のテーマに沿ってレポートを提出してもらいますが、レポートの読者が英語学習者という前提で記述すること(グループ毎に1部を提出)。									
時間外学修の内容と時間の目安	準備	* 教科書及び事前配布プリントの予習をする。(毎回1h)															
	学修	* 英語重要表現の小テストに向けて勉強する。(毎回1h)															
	事後	* 既習の英文や重要な英語表現を理解した後に音読を繰り返して英語独特の発音や読み方(話し方)に慣れていくこと。(毎回0.5h)															
	学修	* グループ発表に向けた原稿作成やレポートの執筆をする。(計15h)															
教科書	千波玲子、田部井圭子、William. F. O'Connor著 Cultural Diversity 『身近にある異文化2』三修社、2007年																
参考書	各種関連プリントを配布する予定																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	英語重要表現の小テスト	20%															
	グループ発表+レポート提出	30%															
	期末試験(推測力向上を図る応用問題を含む)	50%															
注意事項	* 授業には必ず和英(英和)辞書を持参する(電子辞書も可)。 * 予習を前提に授業を進めるので、事前に疑問点を整理しておく(予習段階で理解できなかった箇所を中心に説明することで疑問点の解明を目指す)。																
備考	なし																
リンク	なし																
	URL																

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の 実務 経験	公立高校教員、国立高専教員として英語教育に携わった。また、英語諸問題研究会（私設）を立ち上げ、英語や英語圏にまつわる様々な疑問点の解明に努めた。
実務経験を いかした教 育内容	授業では、英語学習者が抱く英語や英語圏に関する様々な疑問点について、学習者の目線に立って話を展開していくと共に、彼らの知的好奇心をかき立てる授業を展開する。